

■ 市長から市民のみなさんへ

市長 白井 博文



■ 病院内のワーキンググループを紹介します

最近、市民病院の事務長から届いた報告書の一部を紹介します。

平成 20 年、2 つの市民病院の統合をきっかけに、病院の職員が自主的に勉強会を立ち上げました。名付けて「新病院建設 院内ワーキンググループ」。

- これからの地域医療を支える市立病院の具体的な役割とは？
 - 市民に受け入れられやすい市立病院とはどんな病院か？
 - そこで働く職員が働きやすい職場環境とは？
- など自由に考えを述べ合う勉強会です。きまりやメンバーの特定はありません。全体のまとめ役は、行動力が抜群の山本副院長（医師）が引き受けてくれ、副院長室をワーキンググループに開放しています。

立ち上げ後、看護・手術・病棟・外来・透析・放射線・リハビリなどの部門に分かれ、総勢 50 人以上の職員による時間外の勉強会が続いています。患者やその家族の意見、苦情に照らして現状を見直したり、本やインターネットで施設や設備面の情報を集めたり、外部から講師を呼んだり、新病院の視察に下関まで出掛けたりなど、勉強会の活動はさまざまです。

平成 22 年 3 月に「新病院建設基本構想」が提出された後や市広報（平成 23 年 1 月 1 日号）

の市長メッセージが出てからは、さらなる市立病院らしさを目指して、議論も総論から各論に移ってきました。

勉強会では、

- 先に基本理念を考える必要がある
- 医師が積極的に戦略的アイデアを出し合おう
- 地域医療は現実的な観点が不可欠である
- しかし理想も必要ではないか

などの発言が今も繰り返されていますが、これまで病院では経験したことのない、職種の垣根を越え自由に発言ができる内輪の勉強会なので、職員のモチベーションが上がっています。

数ページにおよぶ事務長の報告書は、次のように締めくくられていました。

「医師、看護師、医療技術者、事務職など職種を超えた職員が一堂に会し市立病院のあるべき姿を真剣に議論する光景には感動すら覚えます。このような職員と一緒に仕事ができることを誇りに思います。このすごいエネルギーは必ずいいものを生み出すと信じています。」

対話の日

3 月 24 日(木) 14:00 ～
石井手自治会館

4 月 28 日(木) 14:00 ～
鴨庄西自治会館